

カメラと写真・映像の総合展「CP+ 2026」

パシフィコ横浜で2月26日-3月1日に開催 過去最多の149の企業・団体が出展



業界の最前線を担う最新技術とサービスが集結する (写真は昨年の様子)

幅広い層を対象にした製品が集結

カメラ映像機器工業会(CIPA)は、カメラと写真映像のワールドトップレミアショー「CP+ (シーピープラス) 2026」を2月26日-3月1日の4日間、パシフィコ横浜(横浜市西区)での会場とオンラインのハイブリッド形式で開催する。今年は過去最多となる149の企業・団体が出展(2月12日時点)、業界の最前線を担う最新技術とサービスが一堂に集結する。

オンラインイベントも実施

CP+は、カメラ・レンズ、写真や動画を楽しむカメラマンやアマチュア、フォトグラファーやクリエイター、映像制作会社や放送局、海外からも注目を集めており、2025年は、125社・団体が出展、約5万6000人が来場(対前年112%)。また、オンラインイベントは、42万人(同127%)が参加した。

近年では、交換レンズや撮影用品の分野でアジアを中心とした海外ブランドの参加も増え、動画機材や天体撮影機材、映像関連サービスの企業も出展するなど、CP+は出展者の領域を大きく広げている。

会場では、各社の新製品展示をはじめ、写真家や映像クリエイターによるステージイベント、多彩な写真展、SNS世代や若いファミリーに向けた写真・動画撮影のワークショップなどの企画イベントを取りそろえている。

【開催概要】
日時▽会場イベント
2月26日-3月1日



会場ではさまざまなイベントが開かれる (写真は昨年の様子)

「会場」▽会場イベント
パシフィコ横浜(横浜)サイト | www.cplus.jp
市西区みなとみらい1-1-1

「詳細」CP+公式ウェブページ | www.cplus.jp

RAID 高感度で小型のハイスピード カメラなど各種機材そろえる

RAIDは、各種撮影機材を展示する。PIXBOOM社の「Spark」は、ISO1600まで対応する高感度かつコンパクトなハイスピードカメラ。従来のハイスピードカメラと比較して導入しやすい価格帯を実現した新製品を、出荷開始に先駆けて披露する。



RED製「KOMODO-X」
質とシネマ制作に必要な機能を抑えたモデル。Holland社「HI」

は、大規模現場向けに展開する新しいワイヤレスインターカム。最大80台のベルトパックと広大なエリアをカバーし、Dante対応で放送・イベント現場に適している。長時間稼働の軽量ベルトパックやクラウド管理など、運用性も大幅に強化されたシリーズとなっている。

「X」の画質とシネマ制作に必要な機能を抑えたモデル。Holland社「HI」は、Apple Vision Proなどのイマーシブ・ビデオフォーマット専用開発されたステレオスコピック(立体視)シネマカメラ。左右それぞれに独立した8K解像度センサーを搭載し、両眼で高密度・高精細な3D映像が撮影可能。

ソニー 最新ミラーレス一眼カメラ主力に 豊富な商品群やサービスを展示



フルサイズミラーレス一眼カメラ「α7V」

フルサイズミラーレス一眼カメラ「α7V」(2025年12月発売)においては、ブラックアウトフリーでのAF/AE追従の最高30コマ/秒の高速連続撮影や、最大12ストップのダイナミックレンジによる豊かな階調表現を実際に試すことができる。

また、動きの速い人物が交錯するシーンでも狙った人物をとらえ続ける「リアルタイム認識AF+」(プラス)や、マクロレンズを使ったサイエンスアートの撮影体験、ソリューション(開発

中)をアテにする。会場では、オンライン限定のコンテンツを特設サイト(www.sony.jp/ichigan-a-univers/special-event/cplus/2026)で公開する。なお「αプラサスペンション」は、全国5カ所のソニーストア内「αプラサ」では、CP+2026内で実施されるセミナー/トークショーをCP+2026

「αGallery」では、αで撮影された作品を厳選し、作家それぞれの世界と込められた想いを「それぞれの輪郭」というテーマで展示。また、αプラサ限定の「CP+2026」連動イベントも開催予定。同イベントの詳細については、特設サイトで順次公開する。

ブラックマジックデザイン イマーシブ映像フォーマット 専用立体視シネマカメラ披露



URSA Cine Immersive

ブラックマジックデザインは、最新フルフレーム12Kセンサーを搭載した高解像度シネマカメラ。高解像度シネマカメラ。URSA Cine 12K LRFと同じく36x24mmフルフレームRGBWセンサー(1万2288x8040)を採用し、16ストップのダイナミックレンジによる豊かなレクシジョン、合成、音声色調と階調表現を提供する。

仕上げる事が可能なソフトウェア「ダビチリゾルフ」も展示する。「URSA Cine Immersive」は、Apple Vision Proなどのイマーシブ・ビデオフォーマット専用開発されたステレオスコピック(立体視)シネマカメラ。左右それぞれに独立した8K解像度センサーを搭載し、両眼で高密度・高精細な3D映像が撮影可能。